

山口野中遺跡Ⅱ 現地説明会

[新潟県阿賀野市大字月崎地内]



b. 焼土・炭化物の集積

焼土・炭化物の集積は、検出した遺構の中で最も多く、微高地・低位面を問わず分布します。大半の焼土からは、白色の微細な骨片が出土しています。SC815・842では、焼けたクルミもありました。炭化物層からは、土器・石器のほか、SC825では植物繊維を撚り糸状にしたものを束ねて結んだ糸玉（いとだま）、SC859からは祭祀的な遺物と考えられる石冠（せっかん）も出土しています。また、焼土と灰層が交互に堆積しているものも多く、複数回にわたり火を焚いていた状況がうかがえます。



SC842 検出状況



クルミ出土状況

c. 埋設土器

埋設土器は4基出土しており、低位面での出土が目立ちます。2個1対のもの（埋設土器824）や東北地方から搬入されたと考えられる土器（埋設土器1）などが検出されています。



埋設土器824 出土状況



埋設土器1 出土状況

5. 出土遺物

縄文時代晩期後葉の土器・石器が出土しました。土器の様子は、幅の狭い隆線により作り出される「浮線文（ふせんもん）」と呼ばれるものが主体です。このほか、東北地方から搬入されたと考えられる土器も少量出土しています。石器は、石鏃、石斧などがありますが、定形的な石器が極端に少ないことが特徴となっています。



浮線文土器（浅鉢形土器）



甕形土器



壺形土器



石器(左上3点が石鏃、ほかは石斧)



山口野中遺跡の位置と周辺の主な遺跡

平成25年10月26日(土)

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

株式会社 帆苺組